

# 弥彦村社教だより

令和2年12月23日 NO.19

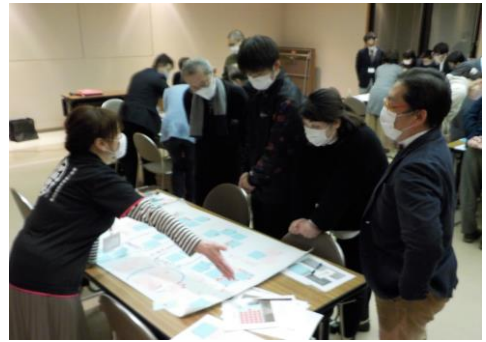
弥彦村社会教育委員の会

## 《第6回地域づくり交流会》

11月28日（土）に今年で6回目を数える「地域づくり交流会」が役場大ホールで行われました。小・中・高校生を含む39名の参加がありました。この会の存在を知り、上越市や新潟市、燕市からも参加してくれる方がいたり、当日、急遽飛び入り参加してくれた方もいたりして大変盛り上がりました。

最初に、昨年度この会で協議された「あいさつマーク運動」と「PR動画コンクール」の取組の進捗状況の説明後、「村を活性化させるため、私たちは何ができるか」をテーマにグループ協議しました。楽しく話をするを合言葉に、活発な意見交換が行われました。あちこちから、感嘆の声や拍手の音が聞こえ、会場は和やかなムードに包まれました。協議後は、各グループを回って内容の説明を受けながら、各自が共感する意見にシールを貼りました。（右上写真）

交流会を肯定的に捉えてくれる参加者がほとんどで、会の継続と次回の参加を希望する声が多く聞かれました。協議とアンケートまとめを以下でお示しします。（文責 渡辺）



協議後のシール貼り

### グループ協議のまとめ

テーマ「村を活性化させるため、私たちは何ができるか」 ※賛同を得た意見のまとめ

#### <1班>

- ◎体験（職場、スポーツ、祭り、文化活動が体験、弥彦をブランドとして認知）
- ◎環境整備（駅前空き店舗活用、観光資源掘起し、あいさつ運動でバッチ、シール）
- ◎観光+体験（イベント等をユーチューブで配信）

#### <2班> ※受け身ではダメ、常に攻める

- ◎あいさつを広めるために（「あいさつはまず大人から」運動、家庭でのあいさつ）
- ◎環境・観光アピールの工夫  
（地区公民館利用しイルミネーション祭り、燕市と協働で農業体験取り入れた農業民宿、総合運動場とブドウ山を活用した体力向上取組、弥彦と言ったら「これ」を増やす）
- ◎人材活用（子どもたちの意見を取り入れ、高齢者を活動に活用）
- ◎村民意見・調査（若者、村外人の意見を活用、弥彦の資源を出し合い）

#### <3班>

- ◎仕事（働く人が子どもに魅力を伝える＝弥彦パーワーク、村内事業者ネットワーク）
- ◎多世代交流（子ども食堂の実施、多世代交流の場作り）
- ◎みんなで作る（やひこカルタ）

#### <4班>

- ◎観光（弥彦登山ポイント→村内で使える、弥彦の良いところ体験、弥彦スタンプラリー、温泉スタンドで湯を販売、SNSで「#弥彦」発信、城山公園の活用）
- ◎あいさつ運動（あいさつマスク・あいさつしますワッペンをつくり配布、あいさつ運動の動画作成、広報紙のタイトルを「ヤッホー」「こんにちは」に）
- ◎PR（村民が弥彦について学ぶ、ふるさとカレンダーを増刷配布）

## < 5班 >

- ◎情報発信（あいさつ運動のPR動画、通学路にBGMを流す）
- ◎あいさつ運動（ユーチューブ動画で取組を発信、あいさつ運動の標語を募集、企業や商店を巻き込んだ取組、看板を立て広報）
- ◎交流の場（村民が交流できるイベント・居場所づくり、アプリで仮想通貨活用、交流会の月1回部活化、友達コーディネーターの設置）

## < 6班 >

- ◎地域づくり（地域人材がつながるリアルな場、空き家対策の弥彦村居住体験、地域の居場所（旧かどや旅館）多世代の交流の場、いきいきサロンへ高校生以下の子どもを引き込む）
- ◎あいさつ（あいさつ運動でアプリ利用、大人主導で質の高い地域に）
- ◎PR動画（小中学生の参加、我が家の料理自慢コンクール）
- ◎教育（学校と地域が連携し地域を素材とした活動・あいさつ運動、児童生徒に弥彦の魅力記事を書いてもらう）
- ◎アプリ（弥彦村内情報アプリ（防災、防犯、回覧板、各種運動））
- ◎観光（弥彦フェス、グランピング（キャンプ場））

## 交流会アンケートまとめ

### 1 地域づくり交流会の参加は何回目ですか

- ア 初めて参加(15) イ 2回目(4) ウ 3回目(1)
- エ 4回目(1) オ 5回目(3)

### 2 今日の地域づくり交流会についてお聞かせください。

#### (1) 交流会の進め方について

- ア よい(23) イ 改善が必要(1)
- ウ どちらとも言えない(0)

概ね好評だった。新たな取組を取り入れながら、今後も継続していくことが求められた。

#### (2) 協議の内容について

- ア 適切である(21) イ 適切ではない(2) ウ どちらとも言えない(1)

テーマを絞ったらよいという意見が何件かあった。意見を実現する方向で話し合いを進めることが重要視された。

#### (3) 参加してよかったと思いますか

- ア とてもよかった(20) イ よかった(4) ウ あまりよくない(0) ウ よくない(0)

全員から肯定的な評価をもらった。意見交換が楽しく有意義にできたという声が多く、やる気になったという意見があった。また、多世代での会を肯定的に捉える意見もあった。

#### (4) 弥彦村の地域づくりに参加してみたいと思いますか

- ア 積極的に参加したい(15) イ 参加したい気持ちはある(7) ウ 参加したいとは思わない(0)

参加したいという気持ちはあるとの回答が100%だった。進んで参加し、村のためになりたいという意見が多かった。ただ、参加したいが、難しいとの声も聞かれた。

### 3 社会教育委員の会では、次年度以降も地域づくり交流会を続けていきたいと考えています。今後の交流会についてのお考えをお聞かせください。

広報をより活発に行い、参加者を増やす。特に小中高校生の参加を求めているという意見があった。さらに、観光協会や商工会からの参加がほしいとの声もあった。その上で、意見の実現に努め、継続していくことが重要との意見があった。

### 4 その他、お気づきの点があればお書きください。

商工会や観光協会、企業、農業生産者の参加、他市町村に参加を働きかけて意見を聞く、という意見があった。参加した中学生の意見が立派だったとの声も上がった。

(アンケート集計 阿部)



グループ協議の様子

## 《南魚沼市学校ボランティア来村》

南魚沼市の家庭教育支援チーム「だんぼの部屋」のメンバー6人が11月10日(火)に来村され、村のスクールサポーターや「やひこえほんの会」の人たちと交流しました。これは今年8月、地域教育コーディネーター2人と公民館長の3人で、「スクールサポーター活動」が活発な同市を訪ね、色々お話を伺ってきました。今回はその時に聞けなかった点やあとから確認したかった点などについて聞くことができ、大変有意義な交流となりました。

南魚沼市は、六日町小学校を拠点に、市内4小学校と総合支援学校の5カ所に活動のための「だんぼの部屋」が設置され、様々な打ち合わせだけでなく、子育ての悩み相談、おしゃべりなど、誰でも気軽に立ち寄れる場所となっています。学校単位の活動もありますが、全市で実施する講演会やイベント、研修会なども数回実施しています。

今回の交流を通じて学んだ中で、私たちは『大人向け絵本の読み聞かせ』を弥彦でやりたいと、今実現に向けて進めています。「絵本の読み聞かせ」は幼児や子どもばかりでなく、保護者など、大人向けに実施することは、読んでもらった大人がやさしい気持ちになれると交流を通して知ったのです。

(文責 柏原)



交流会の様子

## 《第62回全国社会教育研究大会新潟大会》

11月12日「アオーレ長岡」にて開催された社会教育研究大会に参加してきました。本来であれば、全国各地から社会教育関係者が新潟県に集結し、2日間にわたって、全国の皆さんの活動に刺激を受けたり、共感したり、他県の皆さんへ新潟の魅力を発信できたりする機会となるはずでした。しかし、残念ながら新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、大会は1日に縮小され、参加者は新潟県内限定のみの大会となりました。

大会の内容は、

- ◆5市(新潟市・燕市・糸魚川市・長岡市・村上市)による事例発表。
- ◆「新しい社会教育をデザインする～つなぎ、はぐくみ、響きあう生涯学習の実現～」をテーマとしたシンポジウム。
- ◆女優の星野知子氏による記念講演「当たり前の幸せが響きあう社会」の3本立てでした。残念ながら講演は録画でしたが、最後はリモートで繋がり、お話をし直接聞けました。

今回、弥彦村社会教育委員の会は、展示ブースにて、活動内容発表や過去に発行した社教だよりと弥彦の観光パンフレットを置かせていただきました。それらを手にとって、「糸魚川大会で弥彦の発表を聴かせてもらいました。今も継続して活動されていて、素晴らしいですね。」とお声がけくださる方がいて、大変嬉しかったです。先行きの見えない状況が続いているこのような時期だからこそ「人々の心をつなぎ、はぐくみ、響きあわせる」社会教育が重要になると思います。事例発表には弥彦村でもぜひ、やってみたい。取り入れられそう。と感じたことがいくつかありました。大変貴重な研修の機会となりました。今後の弥彦村社会教育委員の会に反映していきたいと思います。

(文責 那須)



弥彦村展示ブース

## 《令和2年度新潟県社会教育委員連絡協議会表彰》



平井茂人さん

平成25年～令和元年の7年にわたり、弥彦村社会教育委員として、「地域づくり交流会」「社教だより」「PR動画コンクール」等にご尽力いただいた**平井茂人**さんが、全国大会の折に「新潟県社会教育連絡協議会表彰」を受賞されました。ご本人は、「殆ど当時の委員長任せで自分はあまり活動できなかったが、こんな素晴らしい賞をいただき、光栄です。」と話されました。平井さんは、元々弥彦村のスポーツ協会の事務局であり、ご自身も指導者として子ども達にテニスを教えています。学校の部活動も今後、地域の力を借り、共同で活動していくことが求められています。残念ながら、社会教育委員の会からは退かれましたが、今後も平井さんは、弥彦村にとって欠かすことのできない貴重な方です。今後ともよろしく願いいたします。  
(文責 那須)

## 《「こだわりをもち、全力で楽しむ」弥彦村教育フォーラム》

地域とともにある教育を目指し、今年で4回目となる弥彦村教育フォーラムを開催しました。(弥彦村教育委員会主催)教育関係者、保護者、スポーツ指導者など、村内を中心に25名が参加しました。テーマは、「心と体の健康を考える ～子どもたちの健全な成長の為に～」で、新潟医療福祉大学大学院の西原康行教授から講演をしていただきました。

西原教授の「競技力の向上はもちろん大切です。しかし、それ以上に『勝負・達成感へのこだわりをもち、全力で楽しむ』ことを前提・優先にした指導が望ましいです。子どもたちにこだわりを持たせることで、自分で考える習慣が身につく、スポーツを通じて、生活技術・判断力・創造性・集中力・自己理解といった能力が高まると考えます。」といったお話に参加者が共感し、頷いている様子が印象的でした。

次年度も、地域の教育力向上を目指し講演会や講座を開催する予定ですので、地域のみなさまのご参加をお待ちしています。  
(文責 徳永)



講演の様子

委員長	渡辺 和也 (矢作)	副委員長	柏原 路子 (麓二区)
委員	那須 裕美子 (川崎)	委員	河井 昌之 (弥彦中校長)
委員	半間 義之 (矢作)	委員	石井 亘 (井田)
委員	阿部 朗子 (弥彦)		
事務局	堀 隆行 ・ 徳永 拓実 (教育課)		

※ ご意見、お聞きになりたいことがある方は、近くの委員、もしくは、教育課事務局にお電話ください。(事務局 94-4311)